

2020 年度 事業計画書



ケニア シロアムプロジェクトでの作業療法の様子


JOCS 医療を通じて、愛を世界へ。
公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

目 次

1. 新年度の抱負	1
2. 中長期計画における位置付け.....	2
3. 海外諸活動	2
3-1 海外派遣	2
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	2
(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー	3
(3) 短期	4
3-2 奨学金事業	4
3-3 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）.....	9
(1) SALT（次世代のための健康と衛生）プロジェクト カンボジア	9
(2) シロアムプロジェクト ケニア	9
(3) ママ・ナ・ムトトプロジェクト タンザニア	10
3-4 災害救援復興支援.....	10
4. 国内諸活動	10
4-1 国際保健人材育成	11
4-2 国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動	11
4-3 マーケティング	13
5. 運営体制	15
5-1 社員総会	15
5-2 理事会	15
5-3 委員会	16
5-4 事務局	16

1. 新年度の抱負

60周年を新しい契機とできるように、共に祈って歩みましょう

会長 畑野研太郎

今年は、東京オリンピック・パラリンピックのおこなわれる年ですが、JOCSにとって
はもっと重要な年であることを、心に刻んで歩みたいと思っております。

それは創立60周年を迎える年であると言うことです。この長い期間にわたって、「みんな
で生きる」という歩みが守られてきたことを、心から感謝したいと思うのです。
SDGsの詠う「誰一人取り残さない」を、JOCSは60年間続けてきたのです。会員・社
員の皆様、寄付を続けてくださっている皆様、さまざまにボランティア活動によって寄与
してくださっている皆様、現・歴代のワーカーや理事・監事の皆さま、そして事務局を担っ
てくださっている（きた）皆様に、心からの感謝を捧げますとともに、共に歩んでくださっ
ている上なる方に、感謝の祈りを捧げます。

そのうえで、2020年をどのように歩むかということを、改めて考える必要があります。

私たちは保健医療をとおして、世界の小さくされている人の命を大切にする活動に参加
し、平和を育てる善意の人々と歩みを同じくすることをめざしています。それは、私たち
に命を与え、大切になさる方から与えられた召命です。これからもJOCSが、世界の人々、
特に小さくされている人々と共に生きていくためには、これらの人々と出会い続けること
が必要です。

そのためには、JOCSが掲げる三つの働きを、さらに充実させていかななくてはなりません。
世界が多くの問題を抱えているように、JOCSも召命を果たし続けるために多くの課
題を抱えているのです。つまり、働き人の派遣と奨学金支援と協働プロジェクトをです。
そしてそれを支える国内事業の足腰も強めていかななくてはなりません。

現在の5ヵ年計画にあるように、新しい海外派遣保健医療従事者を求めます。小さく
された人と共に生きることを喜びとする、召命を受けた働き人を求めます。

奨学金支援も続けます。奨学金を受けて現地に働いてくださっている人たちは、私たち
と志を同じくする同労者です。これらの人々が増やされますように。

協働プロジェクトは、現地で小さくされた人々と共に生きようとする方々を見つけだし、
彼らの働きを自らの働きとして共に歩み支え、一緒に育つ事業です。

これらの活動を下支えし、日本国内でも平和への意志をより強固なものとして歩むため
に、国内活動にも、新しい風が必要とされています。社員・会員の減少や高齢化は、日本
全体に見られる傾向とはいえ、放置しておくことはできない事実です。

創立60周年を、内外共に、私たちに突きつけられている様々な課題と向き合うきっか
けの年として、皆様と共に歩んでいきたいと思えます。しかし、私たちは恐れてはいませ
ん。祈りはきかれると知っているからです。共に祈りつつ歩んでいく年といたしましょう。
「み心が天に行われるように、地にも行われますように。働き人が安全に、与えられた御
用を果たし続けることができますように」。

なお、新型コロナウイルス感染症に関して、WHOが2020年3月にパンデミックを宣
言しました。日本のみならず、世界の状況は予断を許さない状況です。今年度の計画に関
しては、十分に注意を払いつつ、臨機応変に事業を進めてまいりたいと思えます。

2. 中期計画における位置づけ

2020年度は5ヵ年計画2018の3年目となる。

引き続き会員・寄付金を増やし、財政基盤を安定させるための諸施策を進める。会員ではないが長期にわたる継続的寄付をする支援者もJOCSの財政基盤への寄与が大きいいため、重視していく。2020年度はJOCSの設立60周年にあたるため、この機会を有効に活用した広報活動も進める。特にこれまであまり訪問してこなかった地域で、潜在的な支援者と出会う機会を増やす。

海外諸活動においては、タンザニア、バングラデシュでの2019年度からの活動は継続展開しつつ、「取り残された一人ひとりを探し、苦悩と喜びを分かち合う」というビジョンに近づけるような、ワーカー派遣、奨学金事業、協働プロジェクトにおける新たな活動の開始を準備する。

3. 海外諸活動

海外派遣事業ではバングラデシュは運営責任移譲に向けての基盤づくりを進め、タンザニアは調査計画を経ていよいよ具体的な活動を開始する。奨学金事業は新規協力団体との協力を進めつつ、各国の方針に従い事業を展開する。協働プロジェクトは新規案件の発掘形成を進める。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュでは岩本直美ワーカーが第7期の活動をラルシュ・マイメンシンのコミュニティーリーダーの任期満了までおこなう。タンザニアでは雨宮春子ワーカーが第1期2年目に入り、聖ヨハネ・パウロ2世病院での活動を開始する。

ネパール、ウガンダへの将来の派遣希望者を発掘する。

(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）

派遣先：L'Arche Mymensingh（ラルシュ・マイメンシン）

派遣期間：2019年12月～2021年8月

活動概要：知的障がいのある人々とともに生活し、コミュニティがバングラデシュの人々によって運営されるように人材育成と組織づくりをしている。

- 1) ラルシュ・マイメンシンの運営責任を担う関係者のうち国際ラルシュ・アジア環太平洋地域コーディネーター、国際ラルシュ・バングラデシュ担当者、ラルシュマイメンシン理事長の交代時期にあることから、それぞれのリーダーシップの移行を支援する。

- また人事交代後、新しい体制での協働が円滑に進むようチームづくりに努める。
- 2) 新理事に適任の人材を発掘し、理事会定数の9名を満たし、良好な理事会運営を図る。また任期満了に伴う理事長の改選を国際ラルシュ担当者と協働して実現する。
 - 3) 新しいトラスト証書の登録を完了する。またその登録により派生する必要な覚え書きの作成や、旧トラスト証書の整理に必要な諸手続きをおこなう。
 - 4) コミュニティリーダー、リーダーシップチームおよび中堅アシスタントの各職責を明確にして、コミュニティリーダーが担っている職務を徐々にリーダーシップチームや中堅アシスタントに移行し、権限移譲を進めていく。その実現に必要な各人のエンパワーメントや能力強化を図る。
 - 5) 次期コミュニティリーダー候補を発掘し、国際ラルシュ担当者およびマイメンシン理事会と協働のもと、次期コミュニティリーダーを選出する。また必要なオリエンテーションを実施する。
 - 6) 新会計管理ソフト（タリー）による会計管理が円滑に進むよう、会計士を支援する。
 - 7) コミュニティの土地に隣接する第三の土地（7デシメル≒0.01エーカー）購入のためにファンドレイズをおこない、土地の購入と登録を完了する。
 - 8) 地元のファンドレイズ活動を強化する。地元商店街や富裕層、またダッカの企業群へアプローチする。

(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）

派遣先：TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所)
聖ヨハネ・パウロ2世病院

派遣期間：2019年1月～2022年1月

活動概要：ママ・ナ・ムトトプロジェクト（協働プロジェクト）の活動。TAHOが実施するセミナーとスーパービジョンの支援をおこなう。

1) ママ・ナ・ムトトプロジェクト

・TAHO傘下にある、周産期を取り扱っている8つの保健医療施設のプロジェクトに関する基礎調査のデータ収集と分析をおこなう。基礎調査は、2018年8月から2019年7月までの分娩者を対象とする。2020年4月下旬のスーパービジョンの際に、各保健医療施設に結果を報告する。

カリウアの聖ヨハネ・パウロ2世病院は、基礎調査終了後も状況把握のために継続してデータ収集と分析をおこなう。

・聖ヨハネ・パウロ2世病院での活動を開始。

内容は、①看護助産のマニュアル作成、②母子に対する健康教室実施、③医療従事者に対する新生児蘇生法講習と継続的なトレーニング実施、④医療従事者に対する分娩監視装置（妊娠中と分娩中の母体子宮収縮と胎児心拍数を観察する器械）の使用方法和モニ

ター判読の為の研修。

産褥期健診の実施状況を把握し、問題課題を抽出して活動詳細と計画を策定。

聖ヨハネ・パウロ 2 世病院での、活動状況と効果をみて、2021 年より他の 7 つの保健医療施設での活動を開始予定である。

2) TAHO での活動

- ・TAHO が四半期に一度、産科の保健医療施設を対象に実施しているスーパービジョン(巡回視察)に参加する。
- ・TAHO が年に一度開催するセミナーの準備や実施を支援する。

(3) 短期

2020 年度事業計画策定の時点では具体的な派遣予定はないが、常に要望調査をし、必要に応じて派遣を検討する。

[3 - 2] 奨学金事業

2019 年度からの継続としてインド、インドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、ケニア、タンザニアの奨学生を支援する。2020 年度募集では、変化する各国のニーズに合わせた支援方針に基づき選考を進める。また、カンボジアの支援の要望も探る。

(1) インド

2019 年度に採用した Christian Fellowship Hospital の医学生および看護師の 2 名の研修を引き続き支援する。

(2) インドネシア

故田村久弥元ワーカーや故塚本香代美元ワーカー、長尾真理元ワーカーの派遣先の病院である GKST、GMIM、ICAHS 傘下にある保健医療施設で働く職員 7 名(内、2019 年度採用は 4 名)を引き続き支援予定である。

(3) ネパール

故岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことのある HDCS、LMN アナンダバン病院、UMN とこれらの組織の傘下にある病院で働く保健医療従事者 9 名(内、2019 年度採用は 4 名)を継続して支援する予定である。支援先の病院はいずれも基礎的な人材が整いつつある。政府の政策にも掲げられている上級資格及び専門医などの人材育成が必要とされている。長期雇用が見込まれる病院職員の上級資格・専門資格取得に対しては積極的に支援する。

(4) バングラデシュ

乾真理子元ワーカーの派遣先であるカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト(通称カイ

ラクリ・クリニック) 所属のスタッフ 3 名のパラメディック研修 (3 年間) を継続して支援する。いずれも働きながら 3 年間をかけてパラメディック技術の資格を取得する予定で、そのうち 2017 年度に採用した医療部門の若手スタッフは 2020 年度中に資格が得られる予定である。カイラクリ・クリニックでは創立者のベーカー医師亡き後、同医師から技術を学んだ村人らが無資格のパラメディック (*) として医療サービスを担ってきたが、医療技術の維持・向上に加え、団体存続のために有資格者が必要となっている。

*パラメディックとは准医療従事者の意

(5) ウガンダ

首都カンパラ近郊で HIV/AIDS ケアを担うリーチアウト・ムブヤの看護スタッフの看護学士取得を引き続き支援する。また UPMB (*ウガンダ・プロテスタント医療連盟) 傘下の 7 名を継続支援する。研修内容は看護 4 名、助産 1 名、薬学 1 名、公衆衛生 1 名となっている。

また UPMB に加え、UPMB 傘下の南ルウェンゾリ教区も奨学金事業の協力団体に位置づけて募集をおこなう。

* UPMB はウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステの 3 教派が連携し、302 の医療施設を統括する全国規模のネットワーク組織。

(6) ケニア

協働プロジェクトの協力団体であるシロアムの園の理学療法スタッフを継続して支援する。週末のパートタイムコースで 3 年間かけて理学療法学士を取得する予定である。

(7) タンザニア

雨宮春子ワーカーの派遣先である TAHO (タボラ大司教区保健事務所) 傘下にある保健医療施設で働く 14 名 (内、2019 年度採用は 8 名) を継続して支援する。

TAHO 傘下の保健医療施設では保健医療従事者の不足が深刻で、政府が定めている各医療施設の医療従事者数を満たしているところは 1 つもない。基本的な短期研修を受けただけで資格を持たずに働いているスタッフも多く、医師補、看護・助産師、薬剤師など保健医療施設のニーズに沿って基礎的な分野での研修志望が多い。

雨宮ワーカーの主な活動先であり、協働プロジェクト「ママ・ナ・ムトト」の活動拠点となる聖ヨハネ・パウロ 2 世病院の人材育成を最優先に支援する。JOCS では、TAHO の計画を尊重しながら支援をおこなう。

略語一覧

- * GKST : Geredja Kristen Sulawesi Tengah (中部スラウェシキリスト教会)
- * ICAHS : Indonesia Christian Association of Health Service (インドネシア・キリスト教保健サービス協会)
- * HDCS : Human Development and Community Service (ネパールのキリスト教系 NGO)
- * TLMN : The Leprosy Mission Nepal (ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO)
- * UMN : United Mission to Nepal (ネパール合同ミッション。ネパールで活動するキリスト教系国際 NGO)
- * UPMB : Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダ・プロテスタント医療連盟)

2020年度支援予定奨学生一覧

インド (2名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
学生	22	女	Christian Fellowship Hospital	医学	2019年08月 ~ 2021年02月
看護師	24	女	Christian Fellowship Hospital	看護学	2019年09月 ~ 2021年09月

インドネシア (7名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
データ管理、医療記録担当者	21	男	GKST Sinar Kasih Hospital	診療記録	2018年07月 ~ 2021年06月
看護師	42	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2020年07月 ~ 2022年07月
看護師長	38	女	GKST Sinar Kasih Hospital	公衆衛生(修士)	2019年07月 ~ 2021年07月
看護師	40	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2020年07月 ~ 2022年07月
看護師	38	女	ICAHS Estomih Hospital	看護学・看護教育	2019年07月 ~ 2022年07月
会計スタッフ	27	女	GKST Sinar Kasih Hospital	会計	2016年06月 ~ 2020年06月
産婦人科医療助手	23	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2020年07月 ~ 2023年07月

ネパール (9名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医師	34	女	United Mission Hospital Tansen	病理学	2019年06月 ~ 2022年06月
医師	30	男	TLMN Anandaban Hospital	麻酔学	2020年09月 ~ 2023年09月
歯科助手兼准看護・助産師	24	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	歯学	2019年11月 ~ 2022年10月
X線技師	28	男	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	公衆衛生(修士)	2020年05月 ~ 2022年05月
准看護・助産師	31	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	看護学	2019年09月 ~ 2022年08月
看護師・助産専門技能者	34	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	看護学・公衆衛生	2017年09月 ~ 2020年09月
看護講師助手	32	女	Tansen School of Health Science	看護学	2018年10月 ~ 2021年10月
理学療法士助手	32	女	TLMN Anandaban Hospital	理学療法	2016年08月 ~ 2021年02月
看護師	25	男	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2018年08月 ~ 2022年07月

バングラデシュ (3名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
パラメディック	27	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2018年01月 ~ 2020年12月
モニタリング担当者	41	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2020年01月 ~ 2022年12月
医長代行	34	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2019年01月 ~ 2022年01月

2020年度支援予定奨学生一覧

ウガンダ (8名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
看護助手	34	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2019年12月 ~ 2022年06月
准助産師	24	女	UPMB Bwindi Community Hospital	助産学	2019年07月 ~ 2020年12月
准看護師	27	女	Reach Out Mbuya	看護学	2018年08月 ~ 2021年06月
准看護師	30	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	看護学	2020年07月 ~ 2021年12月
医師補	40	男	UPMB South Rwenzori Diocese /Kinyamaseke HCIII	公衆衛生	2018年08月 ~ 2021年08月
看護助手	33	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2017年11月 ~ 2020年05月
准看護師	27	女	UPMB Rugarama Hospital	薬学	2020年05月 ~ 2023年05月
准看護師	27	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2019年07月 ~ 2020年12月

ケニア (1名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
理学療法士	27	男	The Garden of Siloam	理学療法	2018年09月 ~ 2021年09月

タンザニア (14名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医療助手	32	女	St. John Paul II Hospital	薬学	2018年09月 ~ 2021年08月
医療助手	25	男	St. John Paul II Hospital	薬学	2017年09月 ~ 2020年12月
准看護師	25	男	St. John Paul II Hospital	麻酔看護	2019年08月 ~ 2020年07月
医療助手	24	男	St. John Paul II Hospital	医学	2019年10月 ~ 2022年10月
医療助手	23	男	St. John Paul II Hospital	看護学	2019年10月 ~ 2022年10月
医療助手	21	男	Mwanzugi Dispensary	医学	2019年09月 ~ 2022年09月
准看護・助産師	28	男	St. John Paul II Hospital	看護学・助産学	2019年10月 ~ 2020年09月
医師助手	19	男	Mwanzugi Dispensary	薬学	2019年09月 ~ 2022年09月
カルテ管理助手	26	男	St. John Paul II Hospital	データ管理	2019年10月 ~ 2022年10月
医療助手	23	男	St. John Paul II Hospital	医学	2019年10月 ~ 2022年10月
シスター、医師補	43	女	AMUCTA Dispensary	医学	2018年10月 ~ 2023年10月
シスター、病院管理責任者	42	女	Ndala Hospital	病院運営	2017年10月 ~ 2022年10月
シスター、医師補	36	女	Ndala Hospital	医学	2018年08月 ~ 2023年08月
事務	33	女	Mwanzugi Dispensary	看護学・助産学	2019年11月 ~ 2022年11月

*職業欄の職務・職種は奨学金申請時のもの

[3 - 3] 協働プロジェクト(プロジェクト・りとる) (Project “LITTLE” = “Living together with the People”)

2つのプロジェクトを継続実施する。ケニアのシロアムプロジェクトでは短期専門家の派遣を継続すると同時に終了時評価をおこなう。タンザニアのママ・ナ・ムトトプロジェクトでは調査を経て実際の活動を開始する。カンボジアのSALTプロジェクトは2019年度に終了したので事後評価のために訪問する。

また、引き続き新規協働プロジェクトの発掘形成調査をする。

(1) SALT (Sokkapeap Anamai La-or sumrup samai Thmey : 次世代のための健康と衛生)プロジェクト

対象国 : カンボジア

活動地域 : バッタバン州

プロジェクト期間 : 2014年10月1日～2019年9月30日

協力団体 : バッタバン司教区ヘルスセンター

受益者 : バッタバン州内の16小学校および8中学校の高学年生

プロジェクト目標 : 小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

2019年9月をもってプロジェクトは終了したが、プロジェクト期間終了後も小学校での健康教育と中等学校での思春期教育をヘルスセンターの活動として続けられることになっていたため、プロジェクトの自立発展性を確認するための事後評価をおこなう。同時に、終了時評価時点(2019年9月)における協力団体の将来構想として、学校における活動だけでなく、村での成人女性を対象にした健康教育も開始することを考えていたので、その進捗を確認する。

(2) シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア

活動地域 : キアンブ地方行政区 インデンデル地区

プロジェクト期間 : 2016年4月1日～2021年3月31日 (5年間)

協力団体 : コイノニアミニストリー シロアムの園

受益者 : シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力などの発達に障がい(重複障がいが多い)のある子どもおよびその家族

プロジェクト目標 : シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

2020年度は5年の協働期間の最終年度となる。シロアムの園は2020年1月から第2次5カ年計画を掲げ、第1次5カ年計画で目指した①療育施設の設立、②エンパワーメント(子ども・家族を経済的・社会的・心理的に力づける)、③コミュニティ活動を継続

するとともに、障がいについての啓発活動（アドボカシー）も強化する計画を立てている。JOCS はこれらの計画にそった支援を継続し、必要な実施体制の強化、特に人材の育成・能力強化に力を入れる。このために 2020 年 4～5 月に山内章子元ワーカーを短期専門家として再度派遣し、5 度目となる理学療法スタッフへの技術指導をおこなう。また、昨年度に続き作業療法分野の短期専門家を派遣する。

最終年度のため通常のモニタリング調査に加え、終了時評価を実施し、5 年間の活動成果やプロジェクト目標の達成状況を確認する。

(3) ママ・ナ・ムトプロジェクト

対象国 : タンザニア
活動地域 : タボラ州 タボラ大司教区
プロジェクト期間 : 2018 年 4 月～2023 年 3 月 (5 年間)
協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)
受益者 : TAHO とその傘下の 9 の保健医療施設 (病院や診療所など)
プロジェクト目標 : TAHO 傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

分娩の取り扱いがある 8 つの保健医療施設の基礎調査から抽出された課題をもとに策定した活動計画及び雨宮春子ワーカーのスケジュールに沿って、パイロットプロジェクトとして聖ヨハネ・パウロ 2 世病院を拠点とした次の活動をおこなう。

- 1) 医療従事者への母子保健研修と業務マニュアル作成
- 2) 健康教育の実施
- 3) 助産技術の研修 (座学・実技トレーニング)

また並行して産褥ケアの実態調査を行う。2020 年後半以降に産褥ケアの活動を開始できるように、現地協力団体及び雨宮ワーカーと相談をしながら、具体的な活動及びスケジュールを決める。

[3-4] 災害救援復興支援

自然災害などの災害救援への支援要請があった場合に、要請に基づき支援を検討する。

4. 国内諸活動

新規ワーカーの応募へにつながるようタンザニアスタディーツアーなどの人材育成事業を進める。また、新規の入会者、支援者を得つつ、既存の支援者にも継続して支援してもらえるように、JOCS 設立 60 周年の機会を利用し、より一層広報活動に力を入れていく。

[4 - 1] 国際保健人材育成

保健医療分野の国際協力に興味があり、将来その分野で活躍を希望する人を発掘し、育成するために各種人材育成活動をおこなう。特に JOCS ワーカーとして海外で働きたいと思ってもらえるよう、JOCS の特徴が良く伝わる活動を工夫する。

また、タンザニアでスタディーツアーを実施し、ワーカーの活動を直接見る機会を作る。勉強会の機会を利用した JOCS のワーカー志望者への説明会や、個別対応は継続する。

(1) 国際保健医療勉強会

国際保健医療協力活動に携わることを希望する人を対象に 4 回の勉強会を開催する。また従来どおり、勉強会後に派遣希望者相談会を実施し、ワーカーの育成・発掘に努める。

(2) フィールドセミナー

国際保健医療協力活動に携わることを希望する人を対象に、国内で活動する草の根の働き人から、弱くされた人々とともに生きる姿勢を学ぶことを目的として実施する。開催場所は、横浜市寿地区や川崎市桜本地区などの草の根の働きがおこなわれているフィールドを検討する。

(3) スタディーツアー

将来的に JOCS のワーカーをはじめ、国際保健医療の分野で働くことを希望する人を対象に、タンザニア・タボラ州へのスタディーツアーを実施する。タンザニアでは、協力団体であるタボラ大司教区保健事務所や雨宮春子ワーカーの活動地である聖ヨハネ・パウロ 2 世病院を中心に訪問する予定である。

[4 - 2] 国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な状況におかれた人々の状況の周知、及び国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会の提供として、以下の活動をおこなう。

(1) 使用済み切手運動

2019 年度に引き続き、子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる国際協力活動として、より多くの人に参加してもらうため、広報活動をおこない、使用済み切手収集、ボランティア体験の機会を広げていく。また、使用済み切手収集に加え、書き損じハガキ、外国コインの収集も併せておこなっていく。

1) 各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウ 2020 2020 年 4 月 17 日（都立産業貿易センター台東館）
スタンプショウヒロシマ 2020 2020 年 6 月 13 日～ 14 日（広島県立産業会館）

2) 書き損じハガキキャンペーンの実施

書き損じハガキ収集の強化月間を設け、ホームページ等の広報を通じて、書き損じ

ハガキキャンペーンをおこなう。

3) 送料負担キャンペーン

企業や団体が使用済み切手運動に取り組みやすくするため、1箱5キロ以上の使用済み切手、外国コイン・紙幣、書き損じハガキの送付に関し、送料（ゆうパック利用）をJOCSが負担するキャンペーンを実施する。

(2) 地区JOCS活動支援

仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・四国高知各地区において、支援者グループによる使用済み切手整理や地域のイベント出展、チャリティコンサートなどの催し物が実施される予定である。各地区の催し物等への支援をおこなう。

(3) 関西バザー

第26回目のバザーを5月9日（土）に開催する。ボランティアによるバザー委員会が中心となり、大阪聖パウロ教会を会場におこなう。場所の提供、その他側面からの支援として関西事務局が関わる。「切手を持ってバザーに行こう！」をキャッチコピーに、多くの方々にバザーに来ていただき、JOCSの活動を広報し、使用済み切手運動を広めることに努める。

(4) 講師派遣プログラム

学校、幼稚園、社会福祉協議会などに講師を派遣する。その際、先方の要望をよく聞き取り、その内容を反映させたプログラムを準備する。毎年派遣の依頼を受けるところでは、翌年の講話内容の重複を避けるため、派遣ごとに話した内容や活用したDVD名等を記録する。

保健医療系の学校等から、専門知識を要する講義などの依頼を受ける場合は、必要に応じて現・元ワーカーや理事に講師を依頼する。

(5) 事務局訪問受入

学校、幼稚園、社会福祉協議会、地域や企業のボランティアグループなどの希望に応じ、アジア・アフリカの保健医療事情やJOCSの保健医療協力活動、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供する。

共通のスライドを活用し、どの職員が担当しても同じようにJOCSの活動や使用済み切手運動の説明をできるようにする。

(6) 視聴覚資料

希望者に活動紹介DVD、写真パネルの貸し出しをおこなう。

また、活動紹介DVDは、インターネットで視聴できるように、ホームページに動画形式で掲載する。動画形式で掲載するDVDは、以下のとおりである。

「JOCS活動紹介」、「アサンテ サーナ タンザニアにまかれた種」、「カシ ナマ ジュパン」、

「心をひらいて」、「アジアの呼び声に応じて」、「はるかなるネパールの村へ」、「使用済み切手でアジアに医療協力を」

また、各種イベントで「JOCS 活動紹介」の放映を積極的に呼びかけ、JOCS の活動を広く知らせる。

(7) 関西事務局オープンサタデー

「一緒に考え、参加して発言する」勉強会を開催する。毎回多彩な講師を迎えて開催することで、平日 JOCS の活動に参加できない会員や、会員でない人にも実際に事務局に来ていただき、活動に関わってもらうきっかけを提供する場とする。

(8) 国際協力イベント参加

2020 年度も東京ではグローバルフェスタ JAPAN に、関西ではワン・ワールド・フェスティバルに出展を予定している。掲示物等を工夫して人の集まるブースを作り、JOCS の認知度を高める機会とする。

(9) ネットワーク活動

2020 年度も「国際協力 NGO センター (JANIC)」「関西 NGO 協議会」「カンボジア市民フォーラム」「障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)」のメンバーとして、情報交換や、一団体では実施困難な活動をおこなっていく。

また、JANIC のワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」への参加と「NGO 非戦ネット」の呼びかけ人としての活動も継続していく。

(10) 創立 60 周年記念事業

記念事業として、活動紹介 DVD の作成、啓発のための絵本の作成、全国での活動報告会などを実施する予定である。

[4-3] マーケティング

新規支援者を獲得し、既存の支援者に継続してもらうために、従来からの雑誌広告や教会訪問に加えて、プレスリリースを強化し、キリスト教書店での広報活動を新規開拓する。また 60 周年事業の一環として、今まであまり教会訪問をしていない地域の教会訪問をする。これらの活動を支えるためにも、ホームページやパンフレット類の改善、物語データベースの構築を進める。

(1) 会報誌「みんなで生きる」

支援者への説明責任を果たすとともに、活動への理解と共感を得るために、年 6 回（偶数月 10 日）発行する。

海外 3 事業（ワーカー派遣、奨学金支援、協働プロジェクト）の活動報告では、現地の協力団体や共に生きる方々の声を多く掲載するように努める。そのほか、国内活動、地区

JOCS の活動の案内・報告や、国内の支援者の声も掲載する。

(2) 年次報告書

6月にA4版の冊子形態で発行する。会員と、過去5年以内に寄付のあった支援者に会報誌・夏期募金趣意書を同封し郵送する。

支援者に1年間の活動について報告し、会費・寄付の使われ方を知ってもらうと共に、支援を継続してもらうことを目指す。

毎年受け取る支援者を飽きさせないページ構成とする。また、現地受益者、協力団体スタッフやワーカーが共に生きる人々、日本国内の支援者の声を多く掲載する。

(3) プレスリリース

株式会社 PR TIMES の社会貢献活動であるプレスリリース配信サービスの無償提供プロジェクトを活用し、プレスリリースを定期的におこなう。そのために事務局内体制を整える。

(4) 雑誌広告

キリスト教共感層に対して JOCS の認知度を上げ、活動を知ってもらい、新しい支援者を獲得するために、キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』に1ページ広告を掲載する。JOCS の活動への共感を得られるようなストーリーを中心とした「読み物」の広告とする。ストーリーの内容は、現地モニタリングなどで得た情報をもとにした新鮮味のあるものとする。

また、『婦人之友』誌にも広告を掲載し、新たな支援者獲得をねらう。

(5) キリスト教書店での広報活動

いのちのこことば社直営のキリスト教書店で、店舗でのポスター掲示と書籍購入者へのチラシ配布（全国8店舗）、店頭での活動紹介イベントをおこなう。

また、カトリック聖パウロ修道会の運営する書店「サンパウロ」でも、全国6店舗で書籍購入者へのチラシ配布をおこなう。

ほかのキリスト教書店でも、チラシ配布や店頭での活動紹介イベントをおこなえるよう働きかけ、実施する。

これらの活動により、キリスト教共感層にアプローチし、JOCS の認知度を上げるとともに新規支援者獲得を目指す。

(6) 教会訪問

創立60周年記念事業として、全国の教会及び集会で活動報告会を開催し支援のお願いをする。理事、元ワーカー、職員が訪問し、全国の方々に海外保健医療協力活動を知ってもらう機会とする。

(7) 募金

夏期募金については、募金趣意書を、例年のように年次報告書を同封して支援者に送付する。

冬期募金については、募金趣意書を、支援者と直近の1年以内に初めて使用済み切手を寄付した人に送付する。

募金趣意書は、寄付がどのように役立っているのか、また今後どのように使われるのかを支援者が具体的にイメージできるようなものとする。また、冬期募金は趣意書を単独で郵送するので、受け取った人が開けたくなるような封筒を作成し使用する。

(8) 遺贈

2019年度に続いて、高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に遺贈に関する広告を掲載する。JOCSの活動の認知度を高めるとともに、遺贈パンフレットの請求数増加を目指す。支援者向けには、夏期・冬期募金趣意書で遺贈パンフレットを案内する。

2020年7月に遺言書保管法が施行される予定のため、パンフレットを改定する。

(9) 物語データベースの作成

活動の中で与えられた様々な物語をJOCSの広報物、活動報告会、啓発冊子等に展開するため、物語データベースを作成する。2019年度に確定したデータベース仕様にに基づき、外部委託で作成後、具体的な物語を納めていく。

5. 運営体制

公益法人としての責任を果たしながら、JOCSの使命に邁進できるよう総会、理事会、委員会、事務局の体制を整える。2020年度は理事・監事、各委員会委員の改選があるので、6月の総会以降の新たな体制にスムーズに移行できるようにする。

[5-1] 社員総会

第59回定時社員総会を、2020年6月13日(土)に一般社団法人日本聖書協会キリスト教視聴覚センター(AVACO)の礼拝堂にて開催する。

[5-2] 理事会

定例理事会は、7回の開催を予定している。2020年6月13日(土)社員総会までの理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎(会長)、大友宣(常務理事)、小宅泰郎、久保礼子、土居弘幸、
名取智子、榛木恵子、東岡牧、森田隆、柳澤理子

監事：倉辻忠俊、渡部芳彦

2020年6月から2022年6月の理事候補者10名及び監事候補者2名の選任を6月13

日の社員総会に諮る。

[5 - 3] 委員会

2018年6月に組織された各委員会は、理事会の諮問を受け、実務的課題から戦略課題を検討した。2020年6月13日の第59回定時社員総会の終結をもってその任期を終える。本総会で選出される理事による新理事会より、必要に応じてまた諮問をおこなっていく。

[5 - 4] 事務局

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

東京事務局 飯田多香子、石金祐実、小池宏美、高橋淳子、滝澤さおり、
竹内里佳、森田真実子

関西事務局 渋谷理香、岡崎凜